

令和5年度 学校関係者評価報告書

学校法人本城学園 認定こども園 本城東幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・地域の環境を活かして「元気・根気・勇気」の素地を育むことを目的としている。
- 1. 心身の健康と善悪をはじめ、道徳性を育む。
- 2. 基本的な生活習慣や躰を基盤に、温かい人間関係を育む。
- 3. 地域の人、自然、文化を大切にし、心豊かな感性を育む。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・子どもが主体的に取り組める保育の構築
- ・保護者参加型にし、園の理解を図るとともに連携を密にし信頼関係を築く

3. 評価項目の達成及び取り組み状況 A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった

評価項目	評価	取り組み状況・結果
1 子どもの主体性	A	子どもが発信する思いや行動を保育教師が読み取り、環境構成を行い、園児が自分から環境に働きかけて遊ぶ姿が見られた。また、自園で育てた夏野菜の販売をしたいという思いを実現させ、対価を得る経験やその対価で全園児のアイスクリームやジュースを購入してお店屋さん体験をすることが出来た。主体的な取り組みの結果、子どもの思考力の育ちや学びに向かう意欲が高まることが分かった。
2 保護者との関わり	A	コロナが5類となり、行事の手伝いや読み聞かせ、クッキングやガーデニング、生き物など保護者の得意分野を生かしたサークルを立ち上げ園児と一緒に子どもの目線に立ちながら活動を深めることが出来た。さらに、これまでの参観を見直し、一日ママ・パパ先生体験を実施した。保護者が保育に入ることで、普段の子どもの姿や、友達との関りを見て頂くことが出来、また教師の様子を見て頂いただくことで保護者からの信頼と安心感を得ることができ、好評であった。
3 自園理解と実践	A	職員が自園の強みを感じ取って、保育の中で活かしていくことが出来ていた。環境教育では、SDGsの動画を子ども達と撮影をしてESDのフォーラムで発表し高い評価を得ることが出来た。また、30年以上続けてきた幼小交流では幼小の架け橋期の大切さや小学校の先生や保護者とも共有することが出来た。学習に繋がる幼児期の終わりまでの育ってほしい10の姿を意識した保育を実践することが出来た。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価	理由
A	これまで、研修や園内の意思の疎通に励んできた成果が見られ、子ども達の主体的な学びを意識する保育の展開が見られた。子どもの育ちを職員間で共有し合うことで、自分の保育を受容したり、課題を克服したりしてきた。保護者からは教師が園児を1人の人として尊重して接しているという感想もいただいた。一人一人を大切にすることは、園児、保護者、職員間、地域を大切にするという意識に繋がっているので、今後も継承し、新任の教師へも伝統として、伝え続けていくようにする必要がある。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
1 豊かな遊び	子どもの「やってみたい」という気持ちを汲み取り、子ども主体の遊び込める環境作りや適切なタイミングでの援助が出来る関わりをおこなう。そこには年齢・季節感・魅力ある環境を目指す。
2 地域住民との連携	地域に必要とされる園を目指し、園を媒介に地域の人、もの、文化に触れ、そのかわりを通して豊かな心を育めるような仕組みを考える。また、地域の方や小学校、保育園などに園の取り組みの発信や行事に参加してもらうなど交流の場を作る。
3 同僚性を高める	経験年数の幅が広がり保育などの質が損なわれないよう新規採用の教諭に対して教育方針や園の特色の理解を促進し、意識の共有をするなど全体の均質化を図っていく。

6. 学校関係者の評価

園児中心で、園児の成長を考えて工夫された保育で感心します。園長先生の考えがしっかりと全職員、全園児に伝わって日々の活動が行われていることに感銘を受けました。広い視野で物事を見ている世情の変化に対する対応力など園側も保護者側も素晴らしいと思います。

今年度は新たな取り組みであるサークル活動やパパママ先生によって、保護者と先生と地域が一体となって保育がされていました。他にも沢山の行事に保護者が参加する事ができ、保護者と先生との繋がりが更に築け、信頼関係が深まったと思います。

委員会実施日

令和 6年 3月 8日